

# 市場の失敗と政府の役割

財政論 I/II

No.1

麻生良文

# 内容

- 市場の失敗と政府の役割
  - 市場の機能
  - 市場の失敗
  - 政府の役割
- 社会的余剰, 消費者余剰, 生産者余剰

# 市場の失敗と政府の役割

- 市場の失敗
  - 公共財
  - 外部性
  - 自然独占
  - 情報上の失敗
- 所得分配の是正
- 政府介入の根拠
  - 市場の失敗 vs. 政府の失敗
  - 所得再分配

# 市場による意思決定の特徴

- 個々の経済主体が利己的に行動
- しかし、全体としてはうまく機能（神の見えざる手）
  
- 分権的意思決定，中央計画者の不在
- しかし、（市場の失敗が存在しない場合）市場で実現する資源配分は効率的である
  - 社会的余剰の最大化
  - 厚生経済学の基本定理

# 価格メカニズムの機能

1. 情報の伝達 → 財の希少性の情報
2. 資源の利用者の選別
3. インセンティブの提供
  - 消費者の嗜好の調査, 資源の節約, 発明・発見, 努力

## 計画経済の失敗

価格メカニズムの上記の機能を軽視

標準化・数値化の容易な情報とそうでない情報(Hayek)

政治経済学的要因 (独占者への権力集中)

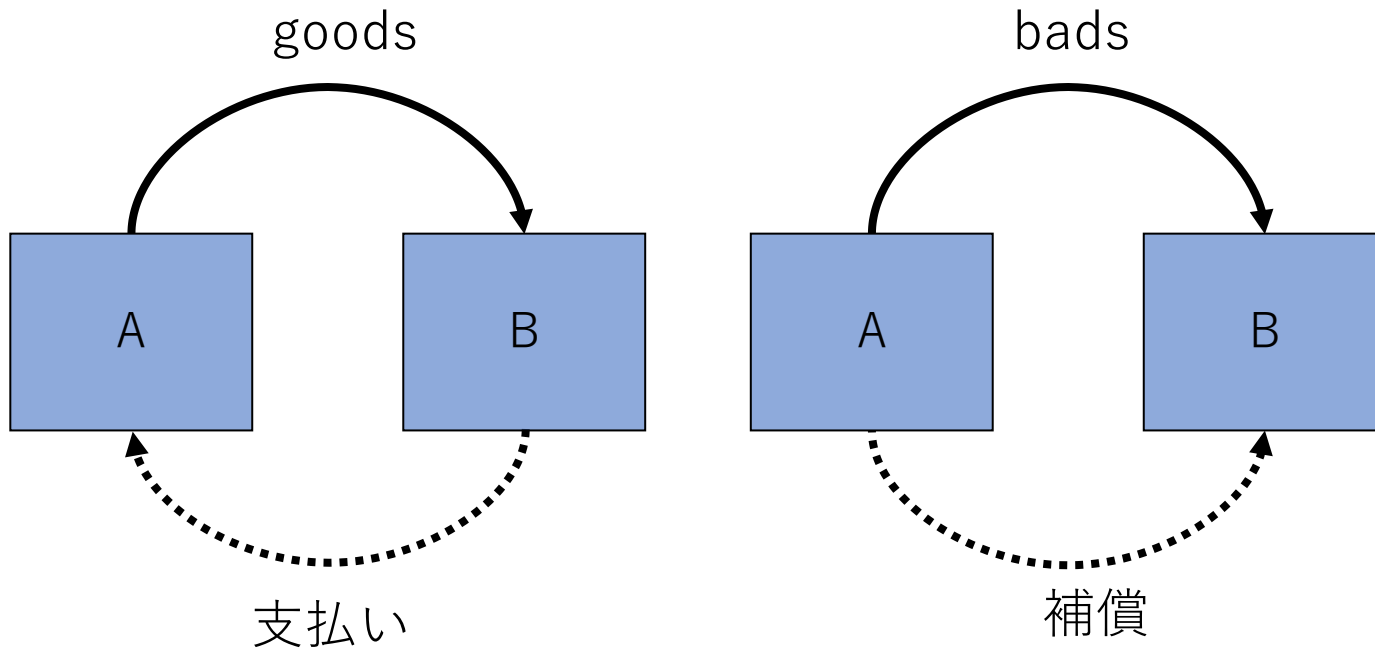
## 財の希少性 → 価格に反映

消費者の限界便益 (嗜好, 所得)

生産者の限界費用 (資源の希少性)

各自は, 価格を考慮して (財の希少性を考慮して) 意思決定

# 価格メカニズムの機能(1)

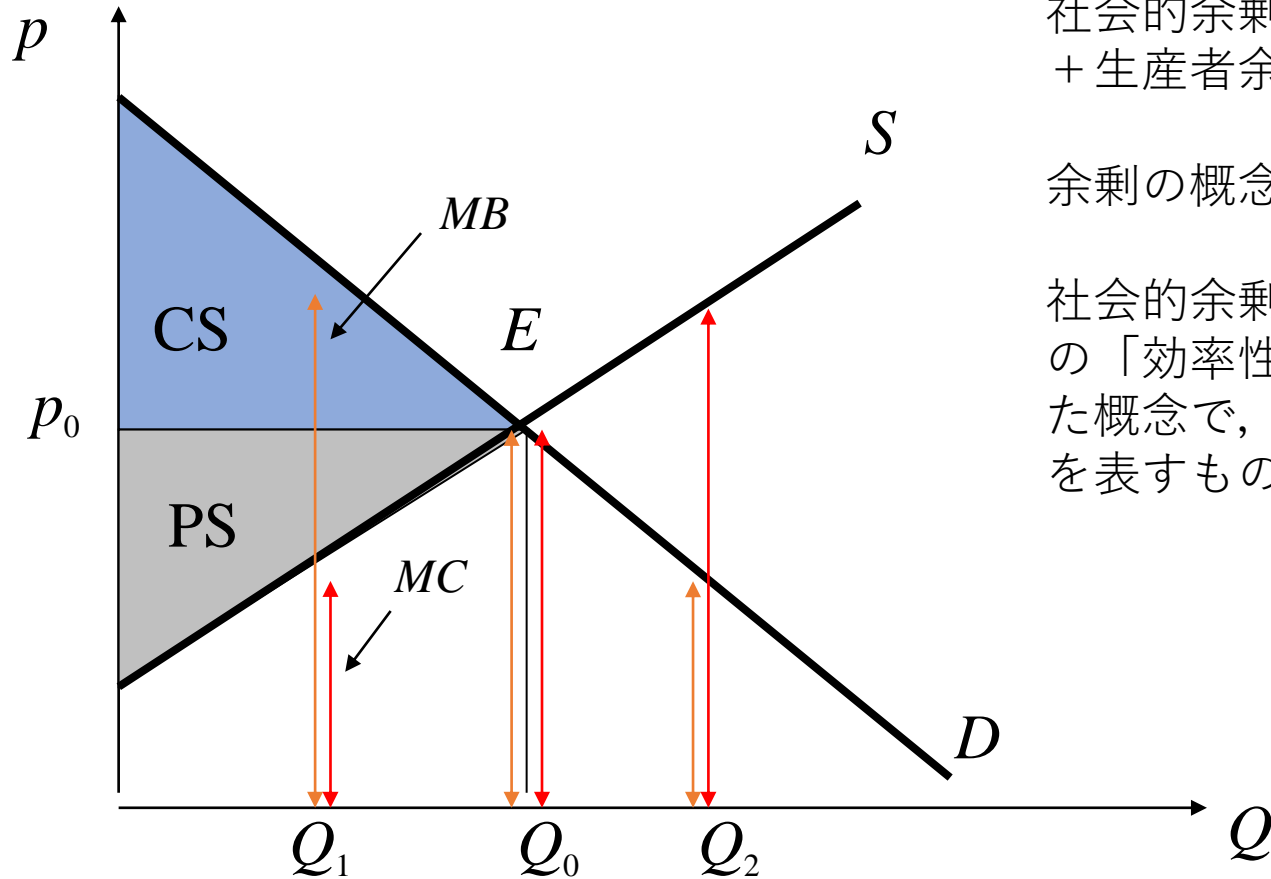


左： A（生産者）がB（消費者）にgoodsを提供すると、Bからの支払いでA自身の利益にもなる。Aの利己的な行動は、Bの利益を促進させる。

右： A（雇用主）がB（労働者）の自由時間を拘束して、A自身のために働かせようとする。Bが十分な補償を受けられなければ、この取引に同意しない。この補償支払いを通じて、Aが利己的に行動していてもBに与える不利益は考慮される。

# 価格メカニズムの役割(2)

市場均衡で社会的余剰が最大化



社会的余剰=消費者余剰  
+生産者余剰

余剰の概念は後ほど

社会的余剰は資源配分の「効率性」に関連した概念で、「公平性」を表すものではない

# 市場の失敗 概観

- 公共財の存在
- 外部性
- 自然独占
- 情報上の失敗

-----

- 所得分配
  - 市場で実現する所得分配は公平ではないかもしれない（市場における資源配分の問題ではないので、通常、「市場の失敗」には含めない）



# 公共財 public goods

- 公共財

- 非競合性

- ある人が消費したからといって他の人の消費機会が減るわけではない

- 排除不能性

- 費用負担をしない人の排除が困難 → 価格メカニズムを用いることが困難

- 公共財の例

- 国防, 警察サービス, 公衆衛生, 知識, 情報

- フリーライダー問題により, 市場では過小供給

-----

- 私的財 private goods → 競合性, 排除容易

# 外部性 externality

- 定義

- ある経済主体の行動が市場を介さずに（金銭的支払いを伴わずに），他の経済主体に影響を与える場合，外部性が存在するという。

---

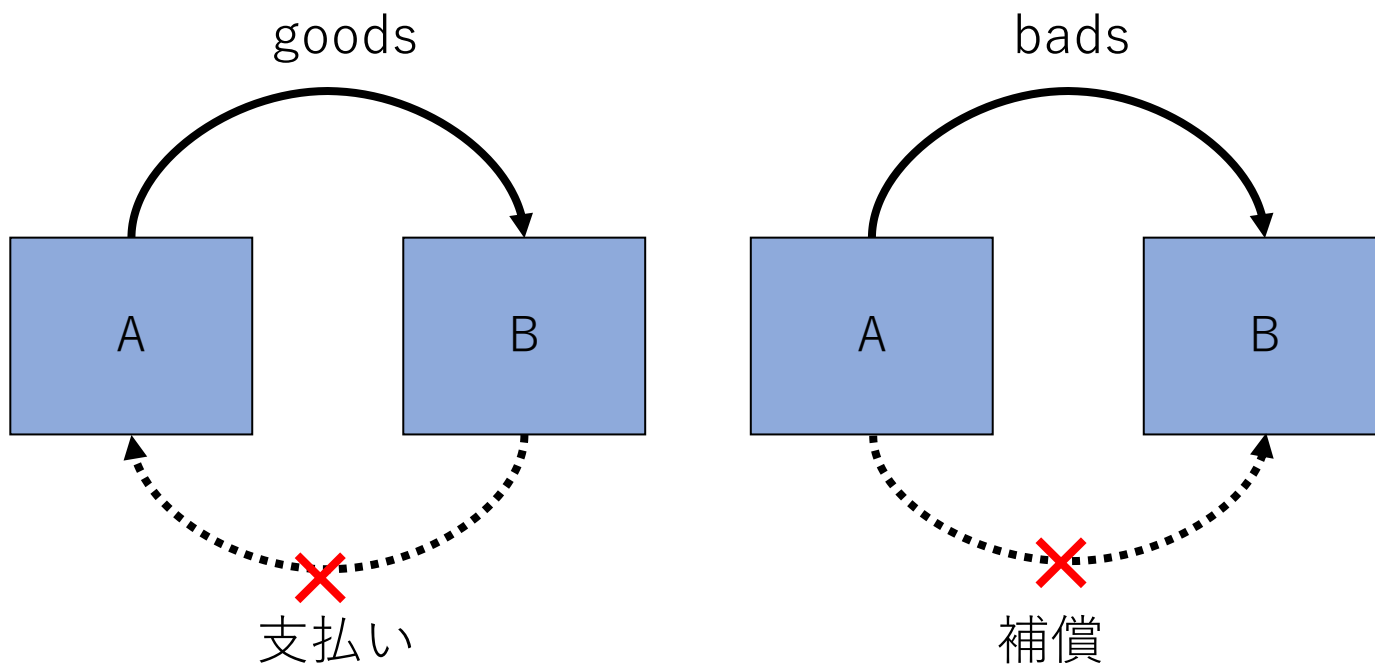
- 正の外部性（外部経済）

- 借景，養蜂業者と果樹園経営者，知識の生産
- 自由な市場では過小な供給

- 負の外部性（外部不経済）

- 公害，騒音，温暖化，共有地の悲劇
- 自由な市場では過大な供給

## 外部性(2)



外部性が存在するとき、相手に良い影響を与える活動はその見返りがな  
いために奨励されない。相手に悪い影響を与える活動は、補償支払が存在  
しないために当該企業に費用を意識させない。このため、そのような  
活動は抑制されない。

# 自然独占 natural monopoly

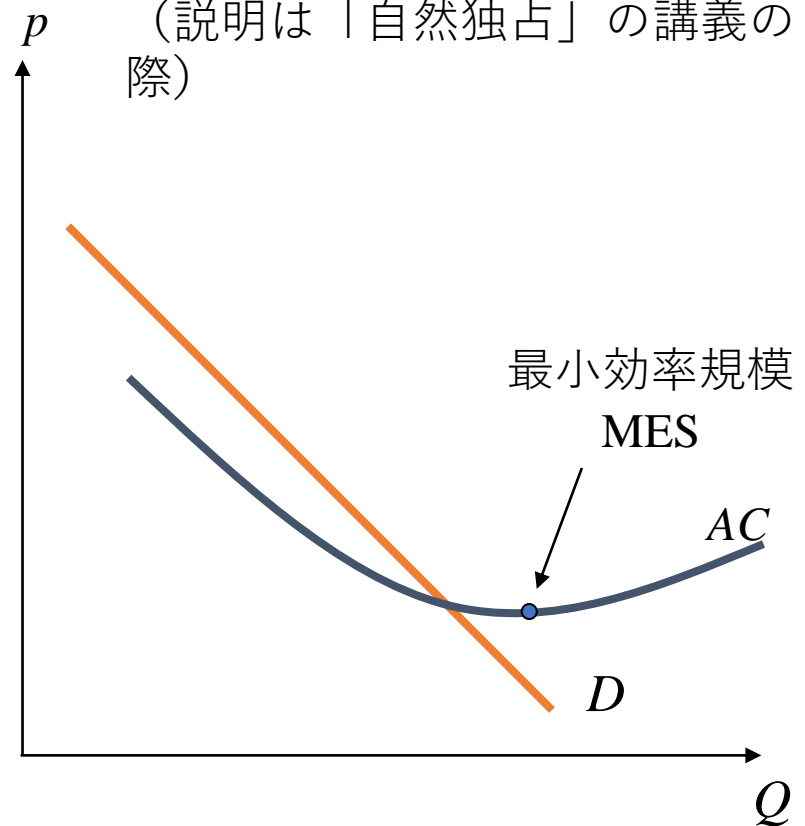
## • 費用逓減産業

- 固定費用が巨額
- 産出量の拡大につれ、平均費用が低下
- 最初にシェアをとった企業が独占→**自然独占**
  - 固定費用 (sunk costであることが必要) が参入障壁
- 電気, ガス, 水道事業, 鉄道事業 etc.

## • 通常の産業

- 長期的には利潤=0 (価格=平均費用) 自由な参入・退出がある場合
- 各企業の最小効率規模(平均費用が最小になる産出量) と市場全体の需要の規模が参入企業数を決める
- 自然独占産業では、一つの企業のMESが市場全体の需要規模を超える

独占の存在→生産物の過小供給  
(説明は「自然独占」の講義の際)



# 情報上の失敗

- 情報の非対称性

- 売り手と買い手の間で，取引される財・サービスの品質について情報の非対称性があると市場はうまく機能しなくなる

- 逆選択

- 保険市場の例

- 事故確率について情報の非対称性が存在すると，事故確率の低い人から保険を脱退し，場合によっては市場が成立しなくなる
- 医療保険，年金保険
- 強制加入が事態を改善する
- 資金市場（高い金利が優良な借り手を選別する機能を果たさなくなる）

# 所得再分配

- 市場を通じた所得分配
  - 公平だというわけではない
  - ただし、貢献原則に基づいている
  - 初期保有資産に依存
  - 市場の失敗が問題を生じさせる場合がある
    - 借入れ制約（能力の高い個人が教育機会に恵まれない，職業訓練のための資金が借りられない，事業資金が借り入れられない）
    - 独占や参入規制が所得格差を生み出す場合がある
- 再分配政策の留意点
  - 真の所得の捕捉（恒常所得，非金銭的所得）
  - 効率性に与える影響を考慮する必要（人的資本投資への影響を含む）

# 政府の役割：その他の問題

- マクロ経済政策-- 分かれる見解（ケインズ派 vs. 古典派）
  - 公共事業の効果、財政赤字や国債の負担
- 社会保障制度
  - 所得再分配政策か保険市場の失敗への対処か
- 政府の失敗
  - 市場が失敗しても政府がうまく対処できるとは限らない
  - 政治経済学的な議論
    - 赤字づけの民主主義(Buchanan)
    - 特殊利益の優先
    - Rent seeking活動,

# 大きな政府 vs. 小さな政府

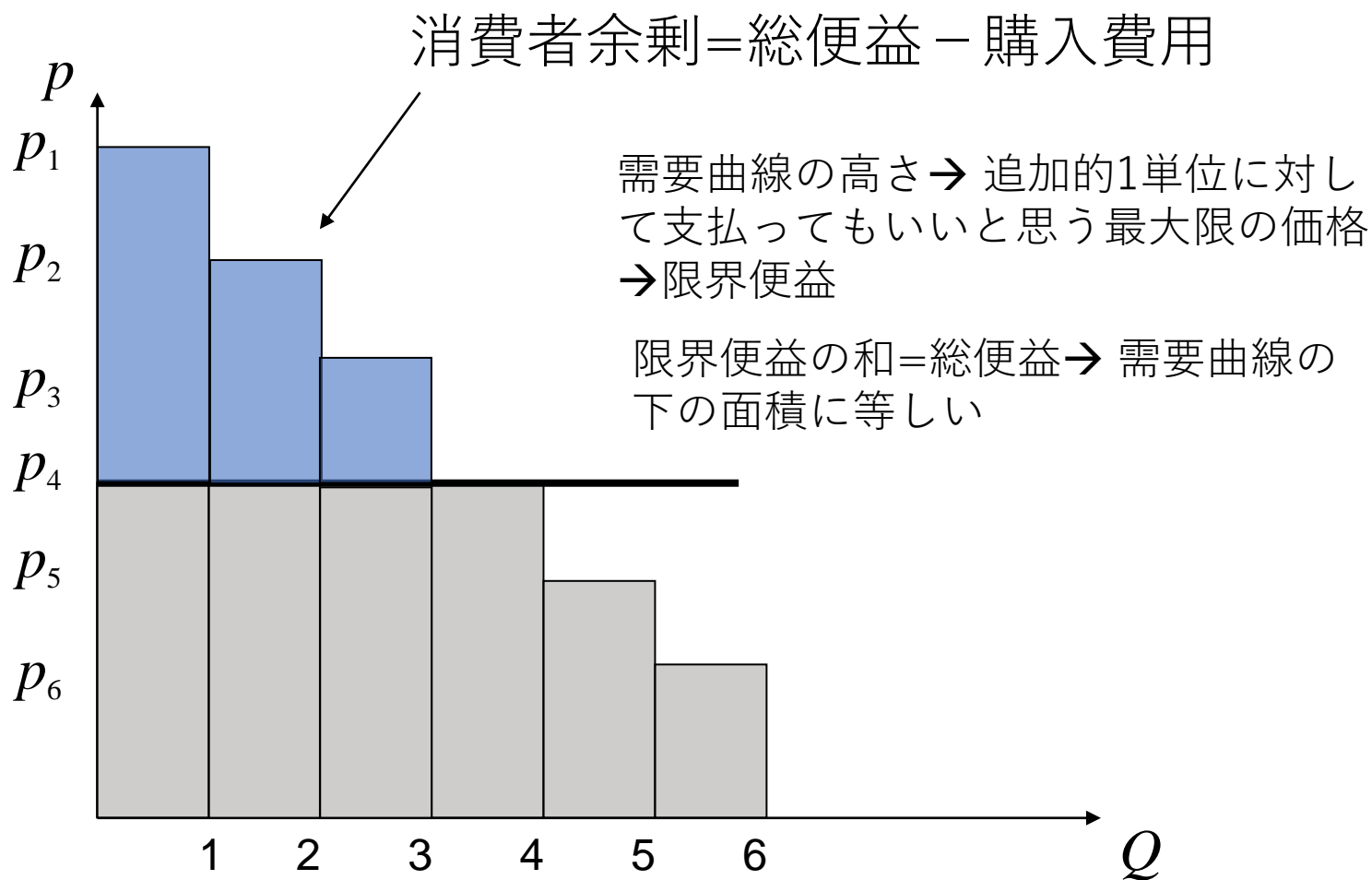
- 大きな政府
  - 重商主義
  - 福祉国家
  - ケインズ主義
- 市場メカニズムの有効性, その限界についての議論に帰着
  - 重商主義的な介入 (産業政策)
  - 市場による分配は公平か, 再分配政策の効果 (公平性と効率性のトレードオフ)
  - マクロ政策: ケインジアン vs. 古典派
    - 市場メカニズムの働く範囲 (労働市場, 価格の硬直性, ...)
  - 政府介入の副次的効果 rent seeking, 政府の失敗



# 市場均衡の効率性

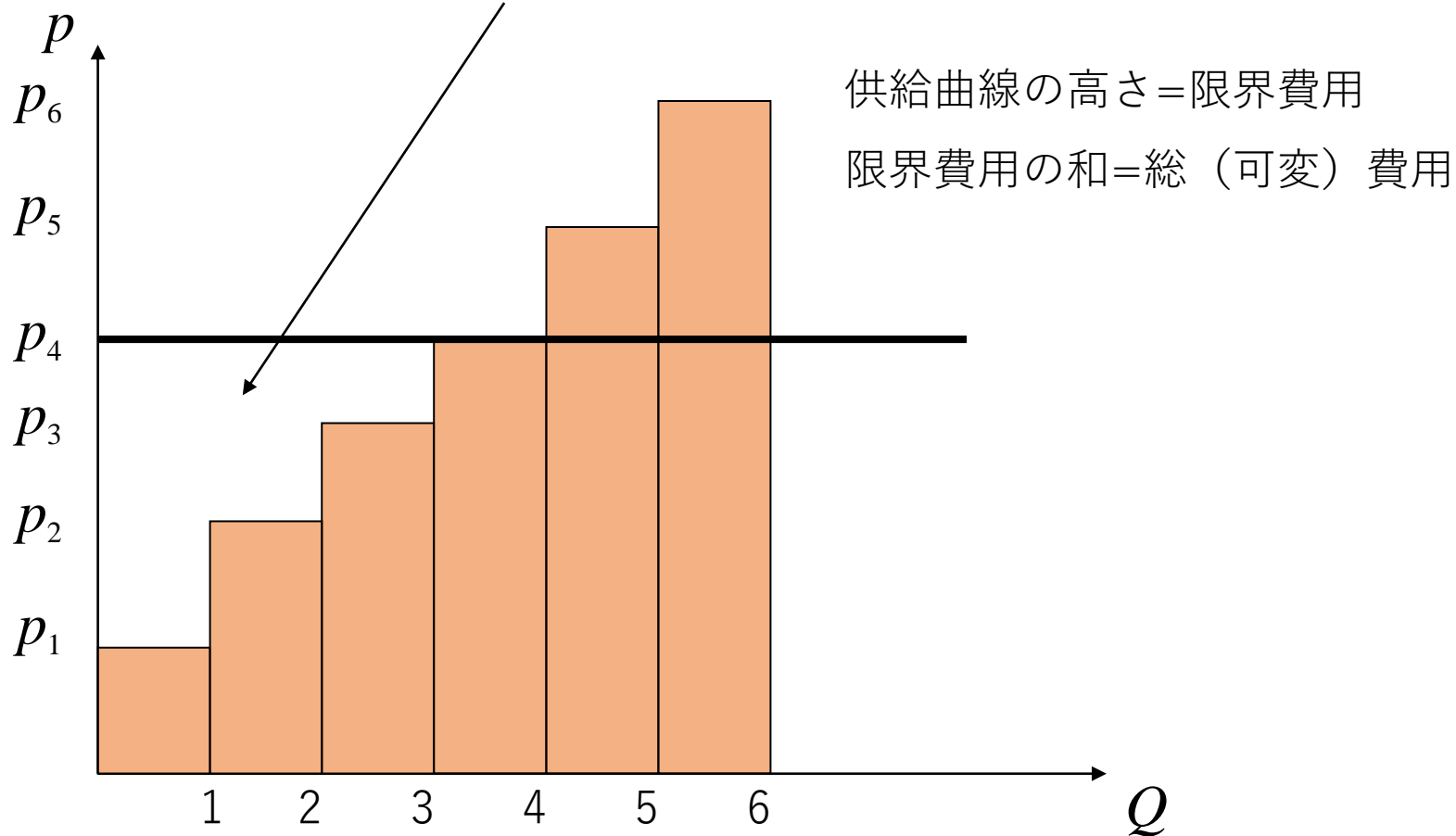
- 「市場の失敗」が存在しない場合，市場均衡は社会的余剰を最大化するという意味で効率的な資源配分を実現する
  - 社会的余剰=消費者余剰+生産者余剰
  - 公平性まで実現するという意味ではない
- 価格メカニズムの機能
  - (1)情報の伝達，(2)資源の利用者の選別，(3)インセンティブの提供
  - 社会的余剰の最大化という命題は、(2)の機能に焦点をあてた議論
- 社会的余剰→部分均衡分析のフレームワーク
- 「厚生経済学の基本定理」→多数の財の存在を考慮→一般均衡分析での命題

# 消費者余剰



# 生産者余剰

生産者余剰 = 収入 - 総可変費用

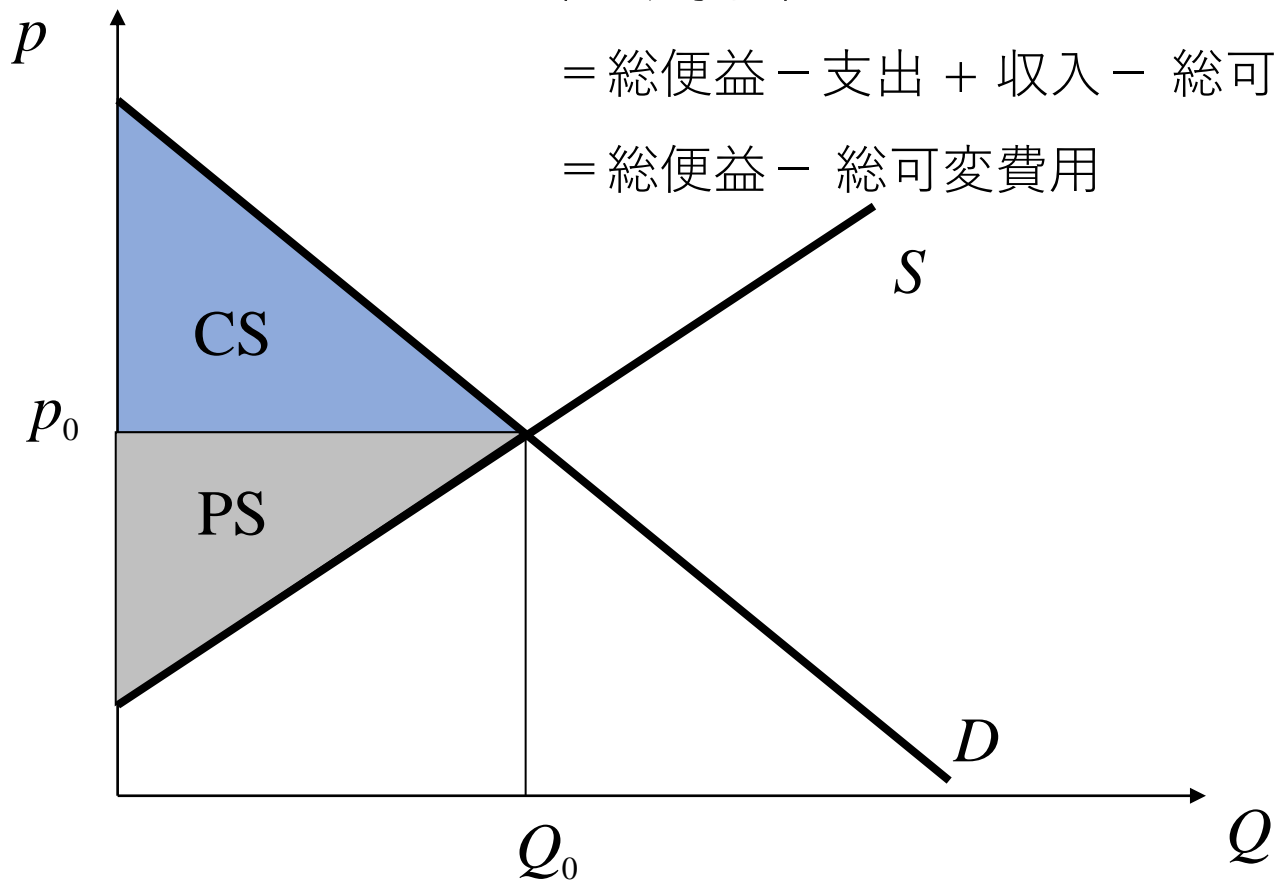


# 社会的余剰 (総余剰)

$$\text{社会的余剰} = \text{CS} + \text{PS}$$

$$= \text{総便益} - \text{支出} + \text{収入} - \text{総可変費用}$$

$$= \text{総便益} - \text{総可変費用}$$



# 社会的余剰の最大化の条件

社会的余剰=消費者余剰+生産者余剰

$$TS(Q) = CS(Q) + PS(Q) \quad (1)$$

消費者余剰と生産余剰の定義

$$CS(Q) = B(Q) - p \cdot Q \quad (2)$$

$$PS(Q) = p \cdot Q - VC(Q) \quad (3)$$

$B(Q)$ : 消費者の総便益;  $C(Q)$ : 可変費用

(2),(3)を(1)に代入

$$TS(Q) = B(Q) - VC(Q) \quad (4)$$

(4)の最大化の条件  $B'(Q) = C'(Q)$  or

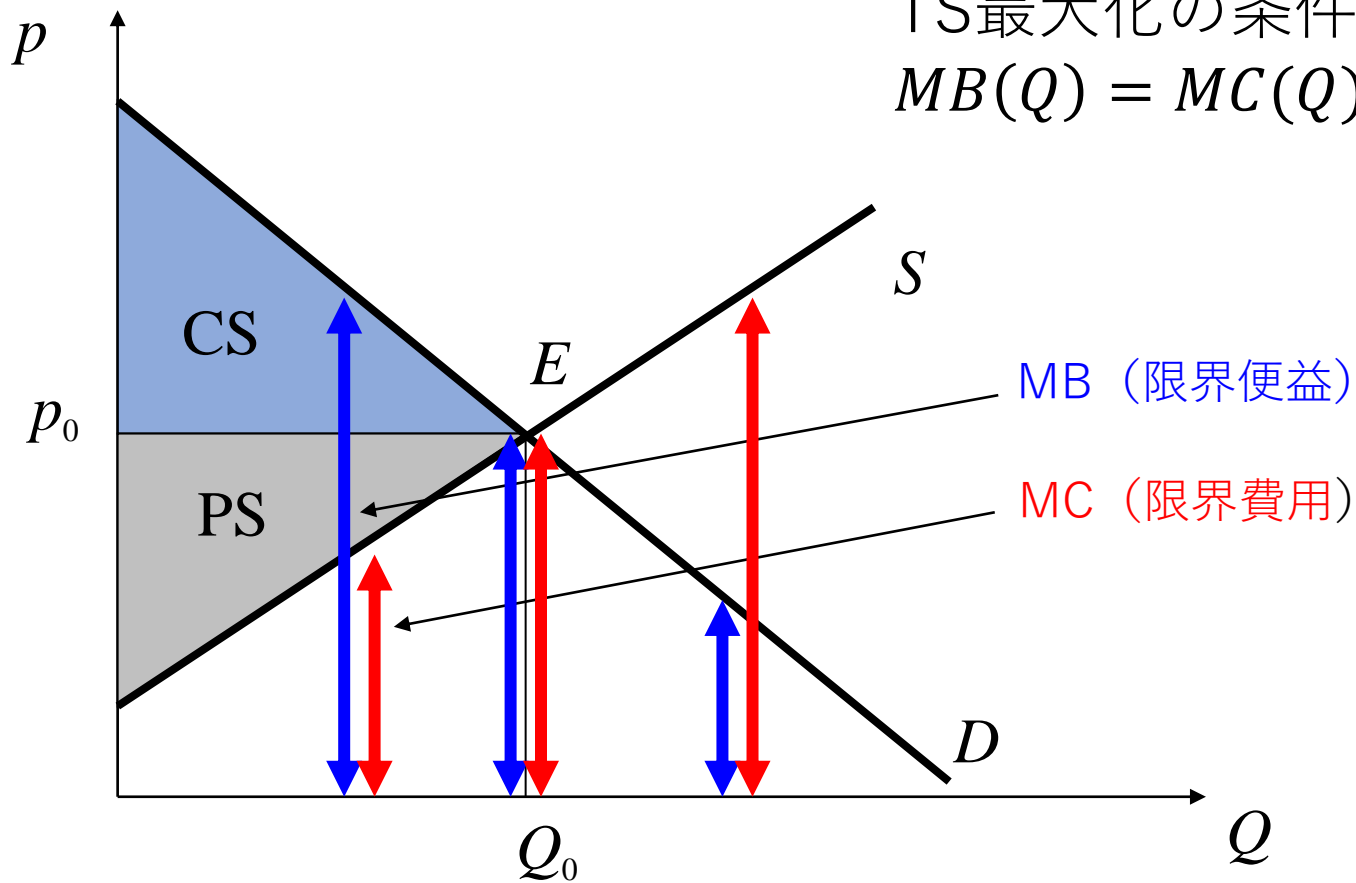
$$MB(Q) = MC(Q)$$

# 社会的余剰 (総余剰)

$$TS(Q) = B(Q) - VC(Q)$$

TS最大化の条件

$$MB(Q) = MC(Q)$$



# 市場均衡の性質

- 市場均衡は社会的余剰が最大になるという意味で望ましい性質を持っている
- 公平性が実現することまで述べているものではない
  - 社会的余剰の最大化 → 効率的な資源配分が実現
- 公平性を実現するためには、所得再分配政策が必要
- なぜ、市場均衡で効率的な資源配分が実現するか
  - 消費者の行動  $p=MB$
  - 生産者の行動  $p=MC$
  - 消費者も生産者も自らの利益をバラバラに追及しているが、共通の価格  $p$  に導かれて、 $MB=MC$  が実現
- 市場の失敗が存在する場合には社会的余剰は最大にならない

# 消費者余剰概念の留意点

- 異なる消費者の限界便益を比較
- 限界便益がなぜ異なるか
  - 選好
  - 所得 → ここが重要
- 消費者余剰の概念
  - 所得分配の状況を見視している
    - もちろん、これが問題にならないような財も多く存在
  - 所得の高い人の選好を重視している
    - 市場を通じた資源の割り当ては高所得者に多くの投票権を与えるようなもの
    - ただし、政府が問題をうまく解決できるかというところでもない



# 政府の役割

- 市場の失敗
  - 自由な市場が効率的資源配分を実現しないケースの総称

- 
- 市場の失敗
    - 公共財
    - 外部性
    - 自然独占
    - 情報上の失敗
  - 所得分配の問題
    - 市場は効率的な資源配分を実現するが、「公平」な分配は実現できない（かもしれない）
  - 政府介入の根拠
    - 市場の失敗 & 所得再分配 vs. 政府の失敗